連載

安川電機歴史館

YASKAWA History Museum

安川電機歴史館の展示品を中心に、製品・技術の歴史的意義や
創業時から受け継がれている安川電機の「ものづくりへの志」を紹介します。

— 第3回 —

三相誘導電動機 20HP

1954年竣工の旧本社事務所の講堂を保存・活用した安川電機歴史館では、当社がこれまでに開発してきた製品などを展示、ご紹介しています。本連載では歴史館に展示されている当社製品とそれにまつわる歴史、価値をご紹介していきます。

安川電機歴史館の見学は
オフィシャルサイトからお申し込みください。

※一般のお客様の見学は10名以上の団体、予約制となります。

三相誘導電動機 20HP 一般需要家からの受注第1号機

安川電機歴史館のホール中央には当社の歴史に関わる製品を展示しています。このうちのひとつが1917年に製作した三相誘導電動機（モータ）です。

1915年に当社前身の「合資会社安川電機製作所」が設立され、最初は自社用の試験機を製作し、続いて当時の親会社にあたる明治鉱業向けのポンプ用誘導電動機を製作していました。そうした会社設立後の間もない時期に、現在の北九州市若松区にあった秋貞製材所へ販売したのがこの20HP（20馬力）の三相誘導電動機で、当社が一般向けに初めて受注・販売した製品です。

当時は積極的に「電機品であれば何でも受ける」という意気込みで設計・製作を重ねながら電機メーカーとしての経験と実績を積み、やがて産業界や社会から広く「モートルの安川」という評価をいただくまでに成長しました。こうした技術への取り組みと発展が、その後のVSモータやミナーシャモータ、現在のサーボドライブの開発につながったと捉えることができます。

現在は歴史館のホールにどっしり静かにたたずんでいますが、1917年に製作されたこのモータはすでに100年以上の年輪を重ねている一番古い製品です。一世紀前となると、いま現役で働いているみなさんの祖父母あるいはそのもう一世代前の方々が働いていた時代に当たります。まだ大正時代で、北九州では八幡の製鐵所や筑豊の石炭鉱業の稼働が本格化した頃に重なります。

そうした時代に当社が製作したこの三相誘導電動機があり、これらに端を発する技術が現在のオートメーションに発展したと考えていただくと、静かなたたずまいの中に歴史の重みをさらに感じていただけると思います。

安川電機歴史館 内部

三相誘導電動機 20HP（写真 左）